コミュニケーション方略の重要性とその指導

原田　淳

1．はじめに

ある高校生と英検3級の面接練習をしていたときのことである．雨の中で女の子が傘をさしている絵のカードを見せ，英語でそれを説明させる課題があった．その生徒は，“It's rain. Girl have ..., girl have ...”と言い淀んで詰まってしまった．どうやら「傘」に当たる単語を知らないらしい．それでもあきらめず，数秒後に「えっと，water cover」と傘をさす仕草で絵の内容を伝えた．学力の高い生徒ではないが，自力で頑張る姿にうれしくなった．

自分の(限られた)言語知識でコミュニケーションを成立させる術を「コミュニケーション方略」(communicative strategies: CS)といい，第二言語習得(Second Language Acquisition: SLA)の研究分野で注目されている．Canale (1983)や Bachman and Palmer (2010)は CS を使いこなす能力をコミュニケーション能力の大切な一要素と位置づけている．CS を駆使したインタラクションは，互いに理解しようとする試み，「意味交渉」を通して言語習得を促進すると言われている(Long, 2015)．相手の意味するところがわからないとき，“I don't understand. Could you speak more slowly?”などと聞き返すことで「理解可能なインプット」(comprehensible input)を入手して自分の知識に取り込める．アウトプットに対する相手からの何らかのフィードバックも，学習者にとっては大切な気づき(noticing)につながるであろう．相手にメッセージが伝われば，領きや“I see.”といった返答など肯定的なフィードバックが期待でき，学習者は自分のアウトプットの妥当性を確認できる．逆に，誤りや不適切な表現を含むアウトプットに対しては何かしらの否定的なフィードバックが返ってくるであろう．相手が語学教師でない限り誤りを訂正されることは稀であろうが，聞き返されたり，不思議そうな顔で見つめられたりするといった暗示的なフィードバックも，学習者にとっては自分の誤りに気づく大切な材料である．Schmidt (1995)は「気づき仮説」(the noticing hypothesis)の中で，学習者による言語的な気づきが習得には不可欠であると主張する．本稿では CS を駆使することこそ，気づきを誘発し言語習得につながるということを論じていきたい．

2．コミュニケーション方略あれこれ

前述の water cover のほか，筆者がこれまで耳にした印象的な CS を紹介したい．

2-1　英語嫌いの生徒の奮闘

「先生，頭痛いから保健室に行っていい？」と繰り返す高校生．英語嫌いで日ごろから授業を抜け出す口実を考えている生徒なので，無視して授業を続けていたのだが，何度もしつこく聞いてくる．そこで，“Use English.”と一喝したら，“Teacher, my head is ouch.”本人の頑張りを評価して保健室に行く許可を与えたら，うれしそうに出て行った．出がけに“I have a headache.”という修正フィードバックを与えたのだが，聞いていたのだろうか．

2-2　海外出張中の災難

海外出張のホテルでオートロックのドアに締め出されてしまった筆者の友人．フロントに行って“Key inside, me outside.”と必死に自分の窮地を伝えたら，カギを開けてもらったそうだ．CS では大人も負けていないのだ．さらにこの英語には押韻もリズムもあり，詩人の才能すら感じさせる．

2-3　アイヌ語習得において

次は，往年の国語学者金田一京助氏のエピソードである．アイヌ語研究を志した若き日の金田一氏は，20世紀初頭，当時日本領であった樺太のアイヌの集落に渡った．だがそこは閉鎖的な社会で，大人たちはよそ者に見向きもせず，相手にしてくれたのは好

奇心旺盛な子どもたちだけであった．そこで金田一氏は集まった子どもたちの前で絵を描き，彼らが発する語をメモするという方法をとった．こうしていくつかの語を採集したのだが，一番必要だったのは「何」に相当する語である．そこで金田一氏は紙にぐるぐるの線を描いて見せると，子どもたちは次々と不思議そうに「ヘマタ」とつぶやいた．実はこの「ヘマタ」こそ，金田一氏が求めていた「何」に相当する語だったのである．こうして石を拾って「ヘマタ？」と尋ねれば「スマ」，草をむしって「ヘマタ？」と問えば「ムン」という言葉が返ってきた．こうしてその日のうちに約 70 の語彙を増やしたということである（金田一，1965）．

2-4　母語習得中の日本の幼児

母語習得にも CS は大きく関わる．サッカーを見て，ボールを「足で投げる」と表現した幼児がいたそうである．このような発話をすることでその子は周囲の人から「蹴る」という修正フィードバックを受け取るだろう．またある幼児は，母親にイチゴにかける練乳をねだるとき，「イチゴのおしょうゆ」と要望を伝えたそうである（今井，2013）．語彙がなくてもあきらめない姿勢は見習いたいものである．

3．方略的能力を鍛えるために

3-1　バラエティ番組から

バラエティ番組「世界の果てまでイッテ Q」（日本テレビ系）でお笑いタレントの出川哲朗氏が見せる「出川イングリッシュ」も CS や意味交渉術の宝庫である（原田，2017）．生徒・学生と一緒に視聴して大笑いしたあと，コミュニケーションや英語学習のあり方について議論することがある．

「自由の女神」を「フリー・ウーマン」と表現し，それが通じないとわかると，「ビッグ・グリーン・ドール・ニューヨーク・ナンバーワン・スポット」と言い換える．「刑務所」は「バッド・ピーポー・スリーピング・ハウス」と表現し，相手から the Statue of Liberty，prison，という語句を引き出している．さらに，「宇宙」を「ベリー・ベリー・ベリー・スカイ」と表現して通じなければ「ドゥーユーノー ET？ユーはヒューマン．ET はホワッツマン？」と尋ね，“Alien?” という答えが返って来れば，「エイリアンがステイ，ホウェア？」と質問し，space という語を引き出した．

拙い英語でコミュニケーションを成立させる様子は学習者に勇気を与えてくれる．バラエティ番組であるが，優れた教材ではないだろうか．ただし隣の教室の迷惑にならないように音量は控えめに，教室のドアを閉めるのを忘れないようにしたい．

3-2　ゲーム形式で

出川イングリッシュのあとは，実際に学習者の CS を引き出す活動につなげたい．生徒・学生に，適切な英単語が思い浮かばずコミュニケーションの壁に直面している場面を想定させ，それに対処させる練習を紹介する．まずは筆者自身が若いころに体験した英語の対話を板書するところから始まる．

“Jun, I waited for 30 minutes but you didn’t show up!（怒）”
“I was waiting for you, too!”
“Really?　Where?”
「えっと，やばい『廊下』って英語で何て言うんだろう（汗）？」

ちなみに「廊下」を意味する hall という語は，国内の学習者には馴染みがないようで，大学のクラスでも知っている学生が一人もいないということもしばしばである．さて，彼らならこのピンチをどう乗り切るか，考えさせることから始める．

次に，「廊下」のように身近でも，多くの日本人が英語にできそうもない日本語の単語が 1 つ書かれたカードをたくさん袋に入れて，生徒・学生にくじ引きさせる．カードの一部を以下に例示する．なお，ここではゲームを平易にするため，名詞だけを扱うことにする．

学校関連：
「家庭科」「保健室」「日直」「授業の単位」など
公共物関連：
「市役所」「改札」「電柱」「踏切」「滑り台」など
家庭関連：
「洗面所」「炊飯器」「貯金箱」「くし」「灰皿」など
病院・身体関連：
「点滴」「フケ」「虫歯」「しゃっくり」「へそ」など
自然関連：
「雑草」「スズメ」「岬」「冬眠」「日食」など

全員がカードを引いたら次の指示を与える．

“Now, don’t show your card to anyone. Your job

is to explain in English what's on your card. The other people will listen and guess what it is."

クラス全員がコミュニケーション方略を体現でき，自分の説明が通じていることが実感できる．肝心なのは英語の完成度ではなく，カードの中身を伝え当ててもらうことなので，英語が苦手でも参加できる．実際「フケ」というカードを受け取った中学生が，snow powder from head と 4 語で簡潔明快に表現したことがある．説明を聞く側も想像以上に優れた「勘」を示すことがある．hospital water という説明だけで，「点滴」と即答した学生には驚いた．「言葉って意外と通じるんだ」と，筆者も参加者も認識できる活動である．

3-3　和文英訳を活用して

しかし，実際の教育現場にはこのような遊び心を持った授業を許さない環境も存在するであろう．筆者も大学受験を控えた高校 3 年生の授業でバラエティ番組を視聴させたり，ゲームをやったりする余裕はない．そこで紹介したいのは，多くの教育現場で実践されている和文英訳で CS を促す指導法である．実際の英語コミュニケーションにおいては，日本語で思考したことを英語に直す場面も少なくないであろう．その意味でさまざまな日本語を英語に直す技術も，CS の一側面であると考える．

和文英訳は多くの場合，「関係詞」「動名詞」といった文法事項の練習として使われるが，ここで紹介するのは CS に力点を置いた活動である．まじめに勉強しているが伸び悩む生徒の多くは，和文英訳を「単語を知らないからできない」と何も書かず，模範解答をノートに写すような受け身の勉強に終始していることが多い．何かしらの英語を書くことで誤りから学べるのであり，白紙答案はそのチャンスを逃していることになる．CS を通して積極的なアウトプットを奨励し，語彙が不足しても何かしらの英文を書けるように，筆者は以下の 3 点の助言を与えている．

1）「字面」でなく「意味」を

「人の言うことを鵜呑みにしてはいけない」という和文英訳問題に，「『鵜』って英語で何て言うの？」と質問した生徒がいた．これは極端な例であるが，日本語の字面にとらわれるのは CS を阻害する．無論，ここでは「鵜」に相当する英単語は不要で「鵜呑み」という日本語の意味を理解すれば，"Don't believe everything people say." という簡単な語句で英語にできる．同様に「これがお口に合いますか」を字面通りにとらえて "Does this fit your mouth?" と訳せば入れ歯になってしまうが，「口に合う」を「好き」と解釈できれば，"Do you like this?" と中 1 レベルの英語でよいことがわかる（川本，2021）．なお，最初の英作文で "Don't believe people say everything." のような誤文解答があるかもしれないが，肝心なのはアウトプットを促し，誤りから学ぶ機会である．まずは字面の罠から抜け出して何らかの英文を作るように指導したい．

2）幼児に話しかけるつもりで

「この町の人口は 5 万人です．」を英訳する場合，模範解答は "The population of this town is fifty thousand." となるだろう．しかし population という単語を知らなくても，スマートに "Fifty thousand people live in this town." と表現できる．発想転換のコツは，幼い子どもに話しかけているつもりで表現することである．そうすれば「人口」という言葉は最初から使わず，「5 万人が住んでいるよ．」と言うのではないだろうか．ある大学入試で出題された「中国は急速な経済成長を遂げた．」という一見難解そうな文も，「中国ってすごいお金持ちになったね」という対幼児語に変換すれば，"China became very rich." と，中学生でも産出可能になる．

3）その日本語が使われる場面を想像

「先生，明日もよろしくお願いします．」という日本語はどのように英訳すればよいであろうか．日本語の字面通りに直訳すると，"Teacher, tomorrow, nice to meet you." という珍文になってしまう．ここは想像力を働かせ，授業が終わって教室を出るときの挨拶だと理解すれば，"See you tomorrow." という自然な英語にできるであろう．また「卵を割ってかき混ぜ，そこにすき焼きをつけて食べてください．」という日本語はどうだろうか．上級学習者なら stir，dip などの語彙が出てくるかもしれない．しかしここは，日本に来た外国人と食事を共にしてすき焼きの食べ方を示している場面を想像させ，"Look. You eat the sukiyaki like this." で立派な

英訳だと教える．従来の和文英訳問題であれば正解とはならないであろうが，相手に通じるためにどうすればいいのかを考えさせるのがこの指導のポイントである．

なお和文英訳という活動は，表現すべき内容を教師が指定していることに限界がある．本来コミュニケーションで伝えるべき内容は，学習者自身の頭の中に浮かぶことで，それを中間言語の発達段階に応じて産出するのが，SLA 理論にかなったアウトプットであろう(Long, 2015)．したがって，上記のような和文英訳活動を通して「意外と簡単に英文を作れるんだ」と気づいた学習者が，次はエッセイライティングなどで本当に書きたいことを英語にする活動につなげていくことが肝要である．

４．おわりに

富田(2012)は，情報化時代に求められるのは「知識」ではなく「知恵」であると主張する．我々が暗記で得られる知識は，インターネット上の生成 AI に到底及ばない．肝心なのは情報を使って何をするかという「知恵」であり，CS はまさにそのような知恵である．学習者が積極的なアウトプットをするようになれば，言語習得を促進するであろう．

しかし CS の価値は言語習得にとどまらない．むしろ，コミュニケーションを楽しめることこそ最大の見返りではないだろうか．出川イングリッシュは多くの視聴者に英語でコミュニケーションをとる楽しさを伝えている．「ヘマタ」を覚えた金田一氏は，それをきっかけに文化社会的な距離を一気に縮め，アイヌ社会に溶け込むことができたのである．

なお，本稿で論じたのは狭義の CS で，近年は方略的能力を積極的にとらえ，言葉の壁の克服だけでなく，円滑なコミュニケーションを成し遂げるための包括的な能力だとする見方もある(達川，2007)．そして相槌や良好な人間関係構築のためのポライトネスも含んだ CS の指導も始まっている(藤尾，2021)．今回紹介したのは方略指導の一歩目に過ぎない．CS 活動を通して英語が使えるという自信を持つことが，やがてより広い意味でのコミュニケーション方略を身につける土台になると信じている．

参考文献

Bachman, L. & Palmer, A. (2010). *Language Assessment in Practice: Developing Language Assessments and Justifying their Use in the Real World*. Oxford Applied Linguistics.

Canale, M. (1983). From Communicative Competence to Communicative Language Pedagogy. In J.C. Richards and R.W. Schmidt (Eds.), *Language and Communication* (pp. 2-27). Longman.

藤尾美佐(2021)『新装版 ネイティブも驚く英会話のコツ あなたの実力を引き出す 28 のコミュニケーション方略』三修社

原田淳(2017)「出川イングリッシュと海外修学旅行での英語タスク」『Chart Network 81』 pp. 17-20.

今井むつみ(2013)『ことばの発達の謎を解く』ちくまプリマー新書

川本佐奈恵(2021)『NHK の英語講座だけで驚くほど英語が話せる勉強法』明日香出版社

金田一京助(1965)『「心の小道」をめぐって』金田一京助全集 14 文芸 I，pp. 460-495．三省堂

Long, M.H. (2014). *Second Language Acquisition and Task-Based Language Teaching*. Wiley-Blackwell.

Schmidt, R. (1995). Consciousness and foreign language learning: A tutorial on the role of attention and awareness in learning. In R. Schmidt (Ed.), *Attention and awareness in foreign language learning* (pp. 1-63). University of Hawaii, Second Language Teaching & Curriculum Center.

達川杢三(2007)「方略能力研究に関する理論的背景」『広島外国語教育研究 10 号』pp. 17-33.

富田一彦(2012)『試験勉強という名の知的冒険：これを教えてほしかった』大和書房

（獨協中学高等学校　立教大学他 非常勤講師）